



タケの子ミニかわら版

さいとう武次郎
市政報告

〒712-8046
倉敷市福田町古新田781-8
TEL 086-450-0555
FAX 086-450-0556

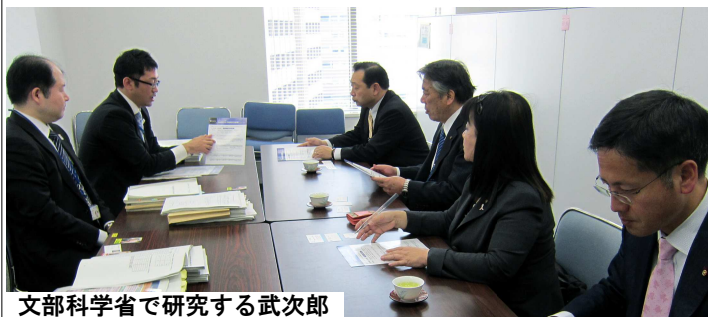


基礎学力向上対策で文部科学省を直撃!

全国学力調査結果を市で独自検証し、独自の改善策立案・実行が必要

市や学校での独自検証、方策が必要 毎年トップの秋田県は12月に独自調査を実施

東日本大震災から2年、11回目の被災地訪問 仙台市の慰霊塔を訪問し、手を合わせる



文部科学省で研究する武次郎

マニフェスト実現に向けて、武次郎は動き始めました。3月29日に、文部科学省を訪問し、全国学力・学習状況調査結果の活用方法について、研究しました。

文部科学省では、調査結果を踏まえた「授業アイデア例」(カラー冊子)を小学校と中学校に分けて作成し、配布されていました。

また、文部科学省では「国全体の傾向を検証しているので、県や市教育委員会、学校としても、自分たちの結果を独自に検証し、改善に向けて対応策を立案、実践してほしい」と言われていました。そのためには、「回答率などを公表し、改善策を示すなど、保護者や地域に理解をしてもらうことも一案ではないか」との見解を示されました。

そこで、武次郎が「結果を効果的に活用している事例を教えてほしい」と尋ねたところ、文部科学省の担当者は迷うことなく、「秋田県です」と答えられました。

その内容を聞くと、秋田県は国の調査結果を基に、独自の分析を行い、具体的な方策を示すと同時に、12月に県独自の学習状況調査を行い、結果を1月、報告書を2月に学校に通知するというスピード集計を行っています。それに伴って各学校では、具体的な方策、補足的な指導などを1月に実施、次年度の教育計画等に反映させているそうです。さすが毎年1位を堅持している秋田県です。

市では、京都市や秋田県大仙市などが先駆的な取り組みを行っていることも教えていただきました。

3. 11東日本大震災から2年が経過しました。

武次郎は、3月に仙台市を訪問し、義援金を仙台市長に直接、手渡すと同時に、慰霊塔を訪問し、犠牲になられた方の冥福をお祈りさせていただきました。今回で、被災地11回目の訪問となりました。

この2年間で、ガレキの撤去などは徐々には進んでいます。復興にはまだまだ時間がかかりそうです。多くの方が今なお仮設住宅での厳しい生活を余儀なくされています。

東北を忘れない、忘れてはならない。今できることを、今できる人がやろう。このことを改めて感じました。



慰霊塔に手を合わせる武次郎



仙台市長・市議会議員と懇談する武次郎

4月1日現在の保育所待機児は48人

4月1日現在の保育所待機児童は48人(昨年同期:18人)でした。すべてが旧倉敷地区の子どもです。

待機児の他に、特定の保育園入所を希望して入所できない子どもが227人(昨年同期:129人)、求職中で入所できない子どもが218人(昨年同期:265人)、その他6人(昨年同期:31人)と、未決定児は451人(昨年同期:425人)です。

「子育てするなら倉敷でと言われるまち」を目指す倉敷市としては、待機児童解消は急務です。